



有限会社 オズ 代表取締役
旅館海月女将

江崎貴久

観光と漁業の共存共栄

観光の力を発揮する
観光資源を見つける

体験ツアーを作ろうと思ったきっかけ

実家が三重県鳥羽で経営していた旅館（1887年創業）が倒産。23歳の時に新会社を立ち上げて、再建する決意をし、5代目女将に就任。

問題意識

- ①倒産した後に継承したので、資金もなく、古くなった宿に手を加えようにも加えられなかった。
- ②鳥羽全体の観光客の数が減っていることに気づき、地域全体での魅力づくりが必要だった。



体験ツアーが出来上がるまでの「いばらの道」

○漁協に相談に行ったら・・・

「観光事業者は態度が悪い。上から目線で話している。」

「あんたが頑張っていることは知っているが、それでも観光は大嫌いだ！」

○何度も漁師のもとを訪れて、ようやくツアーを開催できたら・・・ロケット花火

○観光と漁業という業種間での信頼関係づくりに何年も要した・・・

お魚さんまい！漁師と釣りツアー



本業に加え、年間30～80万円所得UP！
定年後始めたの漁業者の重要な収入源！

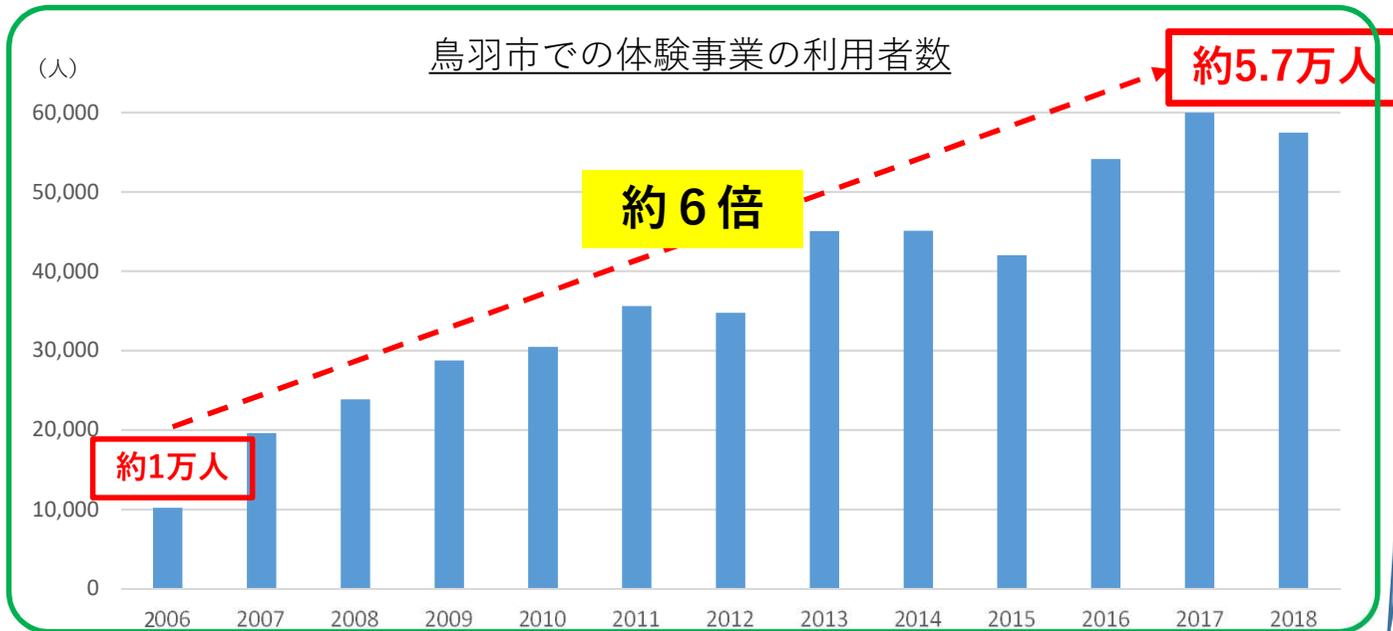
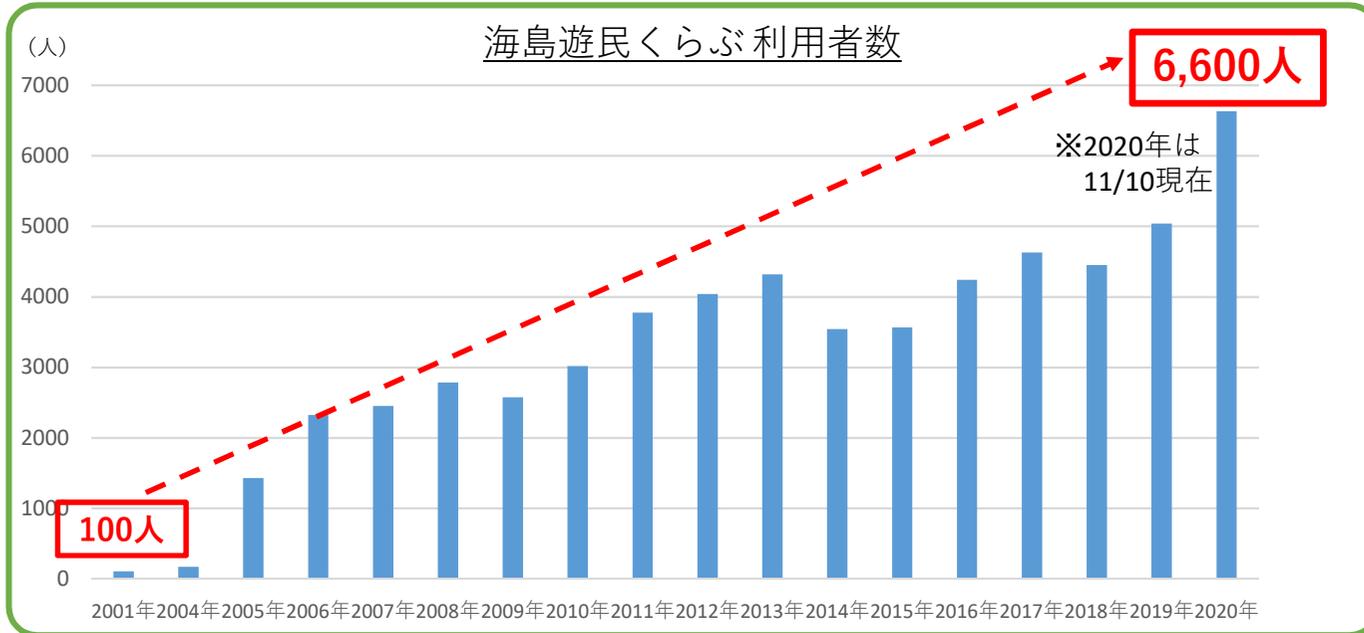
ワカメ刈り♪と採れたてワカメ
しゃぶしゃぶランチツアー



様々な形で漁業者が登場する
プログラムは11種類

漁業者、観光事業者、お客様の三者が喜ぶ一石三鳥！

観光業のための観光から、誰もが参加できる観光事業になった結果



地域全体に魅力づくり（体験ツアー）が広がっている

提言

○海の資源を観光に活用するための「縦割り打破」

～地域に眠る観光資源～

海の中の絶景

サンゴだけが美しいわけではない。
世界が知らない海の世界、例えば「海藻の森」

産地市場の観光資源化

観光の魅力向上と産地の魚市場の機能向上を同時に実現する為に、産地市場の開放を進めるべき。



自治体レベルでの「縦割り打破」！！

漁業（他産業）を理解し連携する際に、自治体にパイプ役となっしてほしいが、観光部局の力が弱く、まとめきれない。自治体レベルでの「縦割り打破」を国に支援してほしい。

○コロナ禍の今だからこそ、宿泊施設の転機に

やる気のある宿泊施設のリニューアルを後押し

世代交代に伴う事業モデルのチェンジや施設のリニューアルに対して、国に支援してほしい。

GoToキャンペーンの継続

GoToキャンペーンで地域の観光地は活気を取り戻した。
キャンペーン終了後の反動が少なくなるように、引き続き継続してほしい。

